（C）日刊スポーツ新聞社

2014.7.23→2020.7.24

毎週水曜日連載
NIKKAN SPORTS SPECIAL

◆五輪メダリスト&〜三宅義信（みやけ・よしの）の不倒40年ロマン大会重量挙げバンタム級銀）・宮城・大河原商高2年で競技を始め、わずか半年で高校選手権入賞、法大3年時に競技歴4年で臨んだ大会で世界記録保持者のヴィンチ（米国）に次ぐ2位に入った。「レイアウトは日本選手

次回13日（水）駝臣官&大地長官 対談第2弾

2020年東京五輪へ 300人リレーコラム 75人目

題字は北島康介氏

全日本プロレス社長兼レスラー 秋山 準 46歳

五輪を意識したのは、大学1年生の時。大人っぽかったかな。高校からレスリングを始めて、最初の大会で決勝までいったんだけど、見た目強そうにないヤツに負けた。それから目分の中で、レスリングを本格的に始めた。大学もレスリングで入って、もしかしたらボクも五輪に出られるんじゃないかという感じになったと言ってもいい。でも、全日本選手権で本田多聞さんと対戦したんだけど、全くこの人には歯が立たなかった。全日本選手権を何連覇もしていて、マットに上がる前から名前負けしてた。それが、プロレスでは、ボクの方が先に全日本に入ったけど、本田さんと呼んでいたけど、本田さんはボクの後輩。ボクは本田さんを先輩としてしっかりはたらいてくれた。五輪もすこかったけど、人間的にもすごいなと思ったね。

レスリング出身の人は、球技が苦手な人が多いけど、ボクは何でも一通りとなんでも一面興味があるとは何でもやらせてくれた。だから、小3まで金メダルを取ったらどうだ、小6で水泳の市の大会に出て記録をつくった。小7のときは、小学校の水泳の大会に出て記録をつくった。小8のときは、中学1年生の夏休みに、個人的には団体競技はいやだったので、一番長い出に残っているのは、94年ロスに五輪。ロスに陸上でも何でも頑張れる持っていたのは、大地と佐藤満（ソウル大会レスリング）、古賀稔彦（バルセロナ大会柔道）、吉田秀彦（五輪、アテネ大会陸上）だけ。大臣もすごいですよ、文科省の会議に出ると、大臣から高校で教えてくれる。五輪選手をつくるのは、早い段階で、いろんな競技に挑戦できて、自分に合った競技を選べる環境を整えてもらいたいね。

ボクの子どもは、小学校から、剣道や、野球もやった。ただ、個人的には団体競技はいやだったので、一番長い出に残っているのは、94年ロスに五輪。ロスに陸上でも何でも頑張れる持っていたのは、大地と佐藤満（ソウル大会レスリング）、古賀稔彦（バルセロナ大会柔道）、吉田秀彦（五輪、アテネ大会陸上）だけ。大臣もすごいですよ、文科省の会議に出ると、大臣から高校で教えてくれる。五輪選手をつくるのは、早い段階で、いろんな競技に挑戦できて、自分に合った競技を選べる環境を整えてもらいたいね。

ボクの子どもは、小学校から、剣道や、野球もやった。ただ、個人的には団体競技はいやだったので、一番長い出に残っているのは、94年ロスに五輪。ロスに陸上でも何でも頑張れる持っていたのは、大地と佐藤満（ソウル大会レスリング）、古賀稔彦（バルセロナ大会柔道）、吉田秀彦（五輪、アテネ大会陸上）だけ。大臣もすごいですよ、文科省の会議に出ると、大臣から高校で教えてくれる。五輪選手をつくるのは、早い段階で、いろんな競技に挑戦できて、自分に合った競技を選べる環境を整えてもらいたいね。

早く挑戦すべき

スポーツ界の舵取り役 大地 スポーツ庁長官 駝 文部科学大臣

初トップ対談 84年ロスの思い出話は東京へ繋がる

スポーツ界のNo.2トップが熱いトークを展開した。昨年10月に就任した文部科学省の駝浩大臣（54）と、スポーツ庁の鈴木大地初代長官（49）。20年東京五輪・パラリンピックへ日本スポーツ界の舵（かじ）取り役を任された2人が、ともに出場した84年ロサンゼルス大会を振り返り、東京大会への思いを語った。プライベートでも酒を酌みかわす旧知の2人は、風通しのいいスポーツ行政の構築を目指す。

NIKKAN SPORTS 東京オリンピック特集

2016年への言葉を記した鈴木スポーツ庁長官（左）と駝文科相（撮影・畑見朱実）

日本メダル32個

◆84年ロサンゼルス五輪 84年7月28日に開幕した第23回夏季大会。80年モスクワ大会を西側諸国がボイコットした影響もあって、ソ連や東ドイツなど東側諸国は不参加だった。直近の大会が赤字続きで五輪の将来が危惧されたが、テレビ放送権料やスポンサー収入で膨大な利益を出し「商業五輪」の先駆けとなった。

日本勢は柔道やレスリング（当時は男子のみ）が大活躍。柔道では山下泰裕、斉藤仁、細川伸二、松岡義之が金メダル。レスリングもフリーの富山英明とグレコの宮原厚次が優勝した。さらに体操の具志堅幸司が2つ、森末慎二と射撃の蒲池猛夫も大会を制し、金メダル数は10個に及んだ。メダル総数もレスリングの9個やこの大会から正式種目となったシンクロの2個などで計32個を獲得した。

地元米国勢は陸上のカール・ルイスが4冠。合計83個の金メダルで、2位ルーマニアの20個を大きく引き離した。日本の10個は全体の7位だった。

84年、ロサンゼルス五輪レスリングのグレコローマンスタイル90キロ級に出場した駝浩